

“エイジレス社会” 海外福祉事情・調査研修に参加して
～デンマーク・ノルウェーの高齢者ケア比較研修～

特別養護老人ホームあわじ荘 看護師
濱野 陽子

はじめに

福祉先進国と言われるデンマークとノルウェーで、両国の高齢者福祉制度について理解し、どのような仕組みでサービスが提供され、支援者の思いや考え方はどうなのか、利用者はどのように感じてサービスを利用しているのかを実際に見聞し、感じることで、今後の事業団の福祉サービス、施設ケアの質の向上につながる知見を得たので報告する。

1 研修の概要

- (1) 研修場所：デンマーク（コペンハーゲン市・ドラゴ市・ヤーレン市）
ノルウェー（オスロ市）
- (2) 研修期間：平成 29 年 11 月 12 日（日）～11 月 18 日（土）（5 泊 7 日）



研修メンバー（ニューハウにて）

(3) デンマーク・ノルウェーの医療・福祉制度

労働者の約 35%が公務員であり、医療、福祉に関わる人材のほとんどが公務員として働いている。

医療システムは医療が必要な時に、一人ひとりが登録している家庭医に受診。病院の一般外来は存在しない。家庭医が休診の場合や、夜間、救急の際には看護師が対応し病院と連携している。歯科以外の医療費は無料。

(4) 視察 1 ポッペルボナーシングセンター（24 時間看護付高齢者住宅）

支援が必要な方や重度認知症の高齢者などを対象とした入居施設 5 施設や在宅ケア用配食サービスなどが併設されている総合施設である。自己決定を尊重し、孤独にならないような環境づくりを心がけている。



(5) 視察2 ヴィダゴークティビティーハウス（保健センター）

高齢者対象の住居や活動を提供している複合施設。ボランティア利用者による民主的運営のもと、“共に時間を過ごす場所”、“アクティビティの場所”として1200名以上の利用者にヨガ等60種類の活動を提供し続けている。



(6) 視察3 ファーゲルトウンシュケイエム（高齢者病院）

約20名の長期居住者と約38名の要介護の高齢者が住んでいる高齢者病院。医師、看護師、PT、OT、美容師、フットセラピー等の多職種が勤務しており職員数は110名。施設の経営哲学は入居者が前向きに生き、職員が仕事を楽しめる環境にすることである。



(7) 視察4 サゲネシニアセンター（在宅訪問看護・介護）

高齢者住宅兼認知症高齢者の方のデイケアサービスを提供している施設。デイサービスでは1年分のプログラムが作成されており、60歳以上で認知症の方であれば参加可能。1日100名程度の方が利用している。高齢者住宅では、67歳以上で現在の住居環境に問題があり在宅では生活が難しいが環境の整った施設では自立した方が入居できる。



(8) 視察5 オーカンホーム（高齢者住宅兼デイケアセンター）

高齢者住宅兼認知症高齢者の方のデイケアセンター。56名の住人に対し100名程度の職員がいる。「意義ある一日にする」を理念とし6つの柱を基とし、自己決定を原則にした支援を行っている。



2 まとめ

デンマーク、ノルウェー共に所得税は、国税、県税、市税を合わせて所得の5割以上が徴収され、消費税は25%と高負担であり日本とは医療・福祉制度も文化も異なる。しかし、高齢者三原則（生活の継続性・保有能力の活用・自己決定）の基本理念に基づき、高齢者の方々の人権を尊重して、有意義な生活を保障するという考えの原点は同じだと感じた。

この研修を通し、「自由」「自己決定」「個人の尊重」など改めて重要だと実感したことを今後も職場内で積極的に発信していき、利用者のサービス向上に努めていきたい。